

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

地震等を観測する機器について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2025 年 2 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

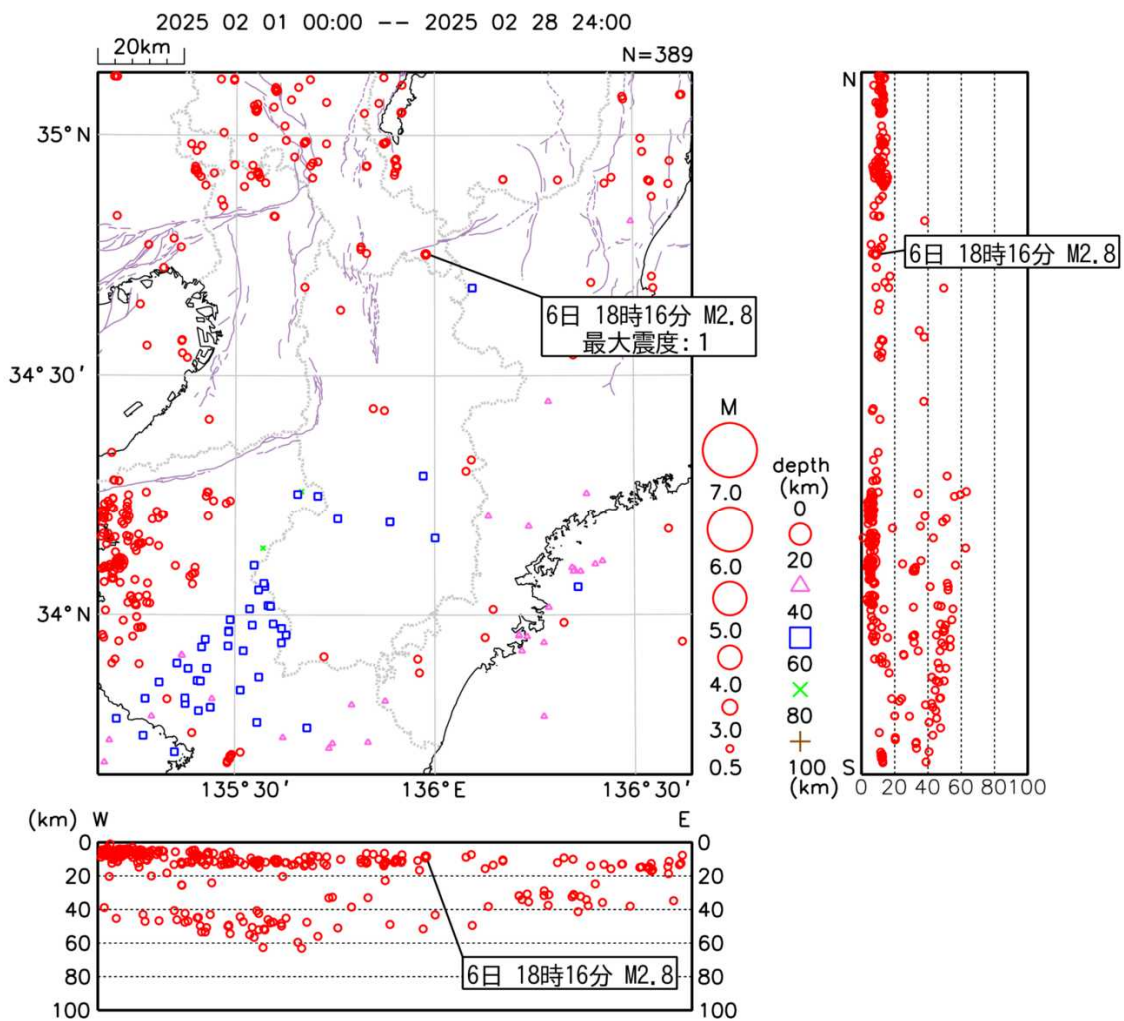


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模等を記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

6日18時16分 京都府南部の地震（最大震度1、深さ8km、M2.8）により、奈良県内では奈良市、山添村で震度1を観測しました。

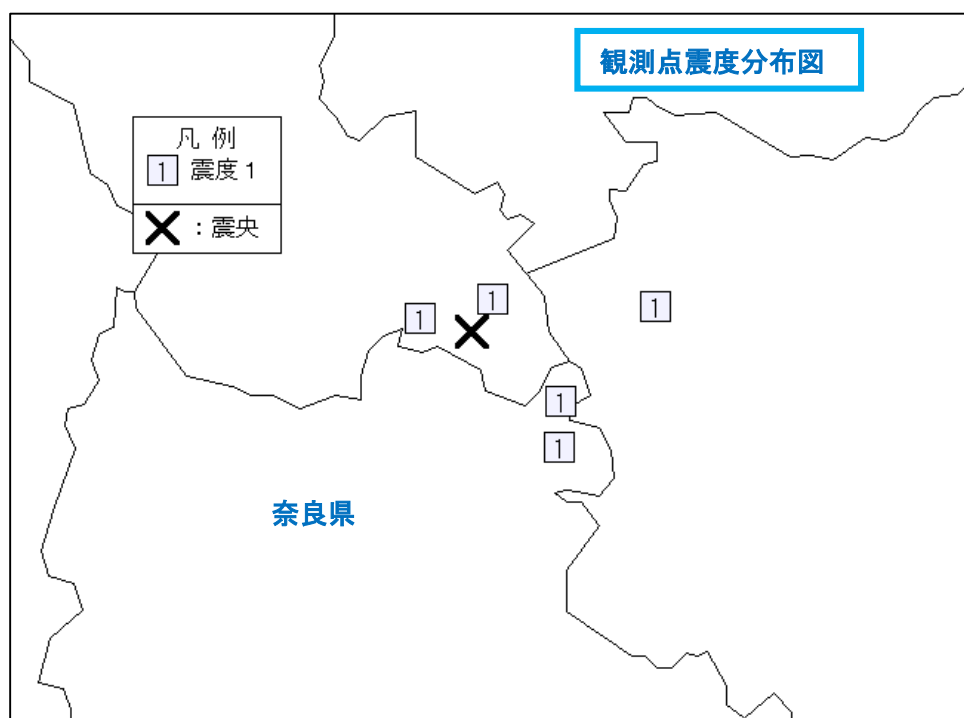
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2025年02月06日18時16分	京都府南部	34°45.1' N	135°58.6' E	8km	M2.8
震度 1：奈良市月ヶ瀬尾山＊、山添村大西＊					

＊印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布】

2025年02月06日18時16分	京都府南部	34°45.1' N	135°58.6' E	8km	M2.8
-------------------	-------	------------	-------------	-----	------



【地震一口メモ】

地震等を観測する機器について

気象庁では24時間体制で、全国に設置した地震計や津波観測施設等の観測データから、地震や津波を監視し、地震や津波が発生すれば直ちに、津波警報や地震情報を発表します。今回は地震等を観測する機器を紹介します。



地震・津波の観測監視体制のイメージ図 気象庁パンフレット「地震と津波」より

【地震計】

地震計は、地震による地面の揺れ（以下、「地震動」という。）を観測する機器です。地震計の観測データは震源や規模（マグニチュード）を決定する際に用いています。気象庁や国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、「防災科研」という。）等が設置した地震計のデータを気象庁へ集約し、地震活動の監視や緊急地震速報、津波警報・注意報、地震情報の発表に活用しています。

【震度計】

震度計は、設置した場所における地震動の大きさから震度を観測する機器です。気象庁は国の初動対応、地方公共団体は県や市区町村の初動対応、防災科研は調査研究を目的として設置しています。震度計が観測した震度は気象庁へ集約し、気象庁が地震情報として発表しています。

なお、気象庁の震度計は、緊急地震速報の発表にも活用しています。



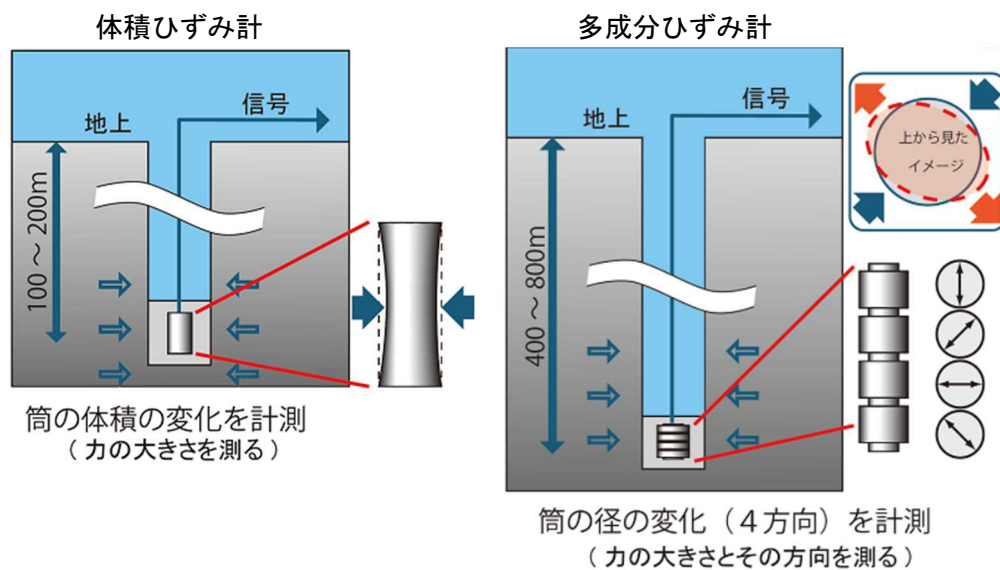
天川村に設置している地震計

【ひずみ計】

ひずみ計は、プレート境界のゆっくりすべり等に伴う地下の岩盤の伸び・縮みを高感度に観測する機器です。ボアホールと呼ばれる直径 15 センチメートル程度の縦穴を数百メートル掘削し、その底に検出部を埋設しています。

気象庁のひずみ計は、体積ひずみ計と多成分ひずみ計の 2 種類があります。体積ひずみ計は、岩盤の伸び・縮みによる検出部の体積の変化（体積ひずみ）を観測します。多成分ひずみ計は、検出部の 45 度ずつ異なる 4 つの方向の直径の変化（線ひずみ）を観測し、ひずみの大きさと方向ごとの変化を知ることができます。

気象庁、静岡県及び国立研究開発法人産業技術総合研究所は、南海トラフ沿いにひずみ計を設置し、観測データは気象庁に集約されて南海トラフ地震に関連する情報等に活用しています。



ひずみ計のイメージ図 気象庁ホームページより



ひずみ計の配置図 気象庁パンフレット「地震と津波」を改変して作成
ひずみ計の詳細な配置図やその他の機器の配置図は気象庁ホームページを参照してください。

気象庁 地震・津波の観測監視体制

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/monitor/index.html>

